



昨年7月1日の中国共産党創立100年の式典において、中国の習近平国家主席は、「中華民族の偉大な復興」を掲げて建国100年の2049年までに「世界一流の軍隊」を擁する「社会主義近代化強国」の実現という目標を再確認しました。経済成長にともない国力が増大した中国は、グローバルなパワーバランスの変化を牽引し、国際社会では「パクス・シニカ」の到来が議論されるまでになっています。そうしたなか、国際秩序の変化の担い手である中国の内実を理解する必要性、特に中国の対外行動を突き動かしている国内のダイナミクスについての関心が高まっています。

当フォーラムは、令和2年度より、加茂具樹・当フォーラム上席研究員（慶應義塾大学総合政策学部教授）主査のもと、幅広い分野の日本の中国研究者を糾合して、研究プロジェクト「変わりゆく国際秩序における日本の外交戦略—中国の対外行動分析枠組みの構築を踏まえて—」（<https://www.ifir.or.jp/studygroup/sg3/>）を組織し、調査研究を行っております。当フォーラムは、その研究活動で得た最新の知見を広く世の中に発表すべく、月1回のペースにて（オンライン）シリーズセミナー「中国を如何に捉え、どう向き合うか 中国の対外行動を突き動かしているダイナミクスを読む」を開催しておりますところ、その第7回目を下記のとおり7月21日（木）に開催いたしますので、ご案内申し上げます。

※これまでの開催実績につきましては以下のリストをご覧ください。

本シリーズセミナーは、秩序の変化の担い手である中国を如何に捉え、どう向き合うのかを考えるために、中国のいまを形作っている個々の事象を読み解きながら、中国の論理への接近を試みます。第7回目は、「ロシアによるウクライナ侵攻後の中ロ関係をどう捉えるのか」という問いを掲げて、本年2月24日から始まったロシアのウクライナ侵攻以後も、依然として緊密な関係を維持している中ロ関係について、中国の国際秩序観とロシアの位置付けを飯田将史防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長より、またロシアが構想する国際秩序のなかの中国の位置付けを大串敦慶應義塾大学法学部教授より、それぞれ最新の分析結果をお話いただき、今後の中国の対外政策を理解するための視点を示していただきます。モデレーターおよびコメントは加茂具樹当日本国際フォーラム上席研究員・慶應義塾大学総合政策学部教授が務めます。

【開催実績】

第1回：「コロナ後の中国をどう捉えるのか」（2021年8月27日開催済み）

小嶋華津子 慶應義塾大学法学部教授 「コロナ後の中国の政治社会をどう捉えるのか」

飯田 将史 防衛研究所米欧ロシア研究室長 「コロナ後の中国の対外政策をどう捉えるのか」

第2回：「中国の地方の動きをどう捉えるのか」（2021年9月27日開催済み）

下野 寿子 北九州市立大学教授 「中国の地方政府と台湾」

熊倉 潤 法政大学准教授 「中国の新疆政策における政策課題の変化」

第3回：「中国の国家安全をどう捉えるのか」（2021年10月25日開催済み）

諏訪 一幸 静岡県立大学教授 「習近平の統一戦線工作」

井上 一郎 関西学院大学教授 「中国政治のなかの中央外事工作委員会」

第4回：「習近平の『新しい政策』をどう捉えるのか」（2021年11月25日開催済み）

林 載桓 青山学院大学教授 「中国の軍民融合政策の政策過程」

廣野 美和 立命館大学准教授 「国際人道支援としての中国コロナ対応」

第5回：「米中間の対立と相互依存をどう捉えるのか」（2021年12月20日開催済み）

真家 陽一 名古屋外国語大学教授 「中国の産業政策の再構築」

山崎 周 キヤノングローバル戦略研究所研究員 「中国の対中東エネルギー外交と米国への依存」

第6回：「習近平の歴史決議をどう捉えるのか」（2022年2月15日開催）

大澤 武司 福岡大学教授 「中国共産党史の視点からみる第三の『歴史決議』」

加茂 具樹 慶應義塾大学教授 「流動する国際秩序と第三の『歴史決議』」

記

1. 日時：2022年7月21日（木）19時から20時まで（Zoom開室は18時55分から）

2. 開催形式：オンライン形式（Zoomウェビナー）

「Zoomウェビナー」とは、各自のパソコンやスマートフォンから簡単にご参加いただけるオンライン会議システムです。会合までにメールにて、Zoom参加URL、パスワード等の詳細を送信いたします。

3. プログラム：

モデレーター（コメント含む） 加茂 具樹 日本国際フォーラム上席研究員 / 慶應義塾大学総合政策学教授

報告 飯田 将史 防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長

大串 敦 慶應義塾大学法学部教授

討論（質疑応答）

4. 参加費：無料 ※定員になり次第締め切りとさせていただきますので、お早めにお申し込みください。

5. 申込方法：下記「申し込みフォーム」より、必要事項をご記入の上、事務局宛にご応募ください。

参加ご希望の方はこちらからお申込みください

<本対話に関する連絡先>

日本国際フォーラム事務局（港区赤坂 2-17-12-1301 [TEL:03-3584-2190](tel:03-3584-2190)）